

社 会 科

公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習

～必要感がある協働的な学びを生み出す学習指導の工夫～

石 高 吉 記
細 野 悠 司
高 橋 佑 樹

1 本校社会科のこれまでの取り組み

社会科研究主題 「公民としての 資質・能力の基礎 を育成する社会 科学習」	H23-25 言語活動を通じた思考力・判断力・表現力を高める指導と評価のあり方
	H26 学習指導法の改善 -他者との関わりを通じた学習指導-
	H27-29 社会を主体的に生き抜くことができる生徒の育成
	H30 新学習指導要領に基づく学習指導法の改善
	R01 「主体的・対話的で深い学び」の実現による資質・能力の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の在り方～
	R02 資質・能力を育む指導と評価の一体化の在り方
	R03 生徒が自ら問い続ける単元計画の工夫
	R04 必要感がある協働的な学びを生み出す学習指導の工夫

2 研究主題設定の理由

(1) これまでの本校の取組

本校社会科では「公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科学習」の具現化を目指し、「社会科学びの地図」を活用した授業の研究を推進してきた。その成果として、①「見方・考え方」を働かせる授業について意識して取り組むことができ、「問い」の工夫により生徒が主体的に学習に向かうことができたこと、②「社会科学びの地図」を活用し振り返りの活動の充実を図ることで、学習改善につなげることができ、「主体的に学習に取り組む態度」の育成ができることが生徒たちの取り組みからわかった。

(2) 本校社会科が考える「挑戦心」の具体

昨年度、本校社会科において、総論を受けて本校社会科で育成したい「挑戦心」の具体を学習プロセスにおいて以下のように整理した。(図1)

段階	課題発見		探究活動		課題解決	
	課題に気付く	見通しをもつ	計画を立てる	調査・考察をする	まとめる	振り返る
学習活動	・資料等から課題意識をもつ。	・学習問題を設定し、予想や仮説を立て、今後の学習の見通しをもつ。	・予想や仮説より、調べたり考えたりするための手立てを考える。	・手立てをもとに、資料等の収集・分析を行う。 ・収集した資料を多面的・多角的に考察・判断し、課題解決に向けてまとめていく。	・調べたり、考察したりしたことを整理・発表し、相互評価を行う。	・学習を振り返り、思考の再構築を行う。また新たな課題を見出したり発見したりする。
挑戦心の具体	・よりよい社会の実現に向け、解決しなければならない課題を考えている。	・これまでの学習から課題解決に役立ちそうな学びを想起している。	・課題を解決するために、学習目標や学習方略などをこれまでの学びから考えている。	・他者の意見から、多面的・多角的に考察・判断するための情報を得て、自分の課題解決に生かしている。	・他者のまとめから、よりよい社会の実現に向け、解決策を構想している。	・学習したことから、よりよい社会の実現に向け、現代社会の課題の解決に思いを巡らせている。

図1 本校社会科部が整理する学習プロセスにおける挑戦心の具体の姿

上記のことから、本校社会科が考える「挑戦心」は、「学習活動において、課題の解決から、よりよい社会の実現を目指す姿」と考えた。

(3) 協働的な学びの充実に向けた問いの工夫

総論で述べられているように、協働的な学びの充実について、本校においては、①多様な情報を活用して協働的に学ぶ、②異なる視点から考え協働的に学ぶ、③力を合わせたり交流したりして協働的に学ぶ、ということ在意図して行っている。本校社会科では、その前提として、まず問いの工夫から、生徒の協働的な学びの必要感を持たせる手立てを講じ、以下に整理した。

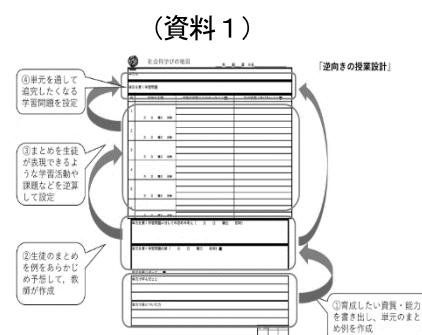
協働的な学びの必要感を持たせる続く問いの工夫の例

- ・自分事として捉え、切実感をもつことができる問い。
- ・社会とのつながりが生まれる問い。
- ・多様な考えが生まれ、他者の意見が聞きたくなるような問い。
- ・自分一人では解決が困難で、他者との協働に必然性をもつ問い。
- ・学習した成果が、他者や社会に受け入れられ、社会の変容が見える問い。

以上の内容を各分野の単元の中に意図的に計画し、本校社会科の目指す必要感をもった協働的な学びを生み出す工夫を行った。

3 振り返りシートを用いた生徒自らの「挑戦心」の意識化

「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること」という点において、本校社会科では学習したことの意義や価値を実感できる取り組みとして、「社会科学びの地図」というポートフォリオ形式のワークシートを活用している。(資料1) 小單元ごとに、生徒は一枚作成したワークシートを評価し、GIGAスクール



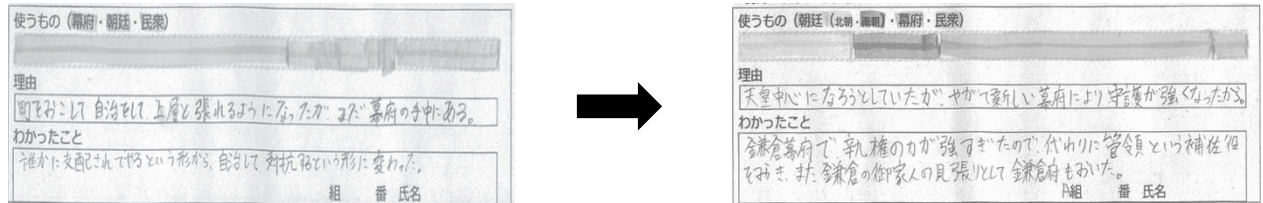
構想に基づく一人一台端末において記入し、振り返り等を行い、データで積み上げている。「社会科学びの地図」には学習前の生徒の実態把握、学習の内容、学習後の振り返りを記述させる。教師は、単元が終わるごとに評価を行い、生徒の記述に学習を支援する記述を書き込み返却した。生徒の学習における変容を教師が把握し、学習の支援を適切に行う形成的な評価の役割をもたせるよう、工夫・改善を行う。個別最適な学びという点においては、生徒が毎時間記入する振り返りにおいて、教師側が簡単なフィードバックを行うことで、生徒自身がそれぞれの学習目標や学習方略に基づいた課題解決の方向性を確認できたり、足りない視点を補えたりすることができる。そういった形成的評価を教師側が行い、生徒自身が学習改善に活用している。詳細な活用方法については、4 研究の実際【手立て2】と各分野の当日資料を参考にされたい。

4 研究の実際

【手立て1】困難に向き合い、試行錯誤するなどの挑戦する学びの場面の設計

歴史的分野の単元である「中世の日本」では、武士政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農業や商工業の発達に着目して問いを設定し、「中世の日本」を大観して、中世の変化の様子や時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現することを目標としている。そこで本校では、「勢力グラフ」を

用いた学びの場面を設計した。単元を貫く学習問題として、「中世はどのような人が力を持ち、変化し、近世につながったのか」を設定した。これを探究するにあたり、第一次～第三次の課題として「中世の勢力グラフを作成しよう」という課題を設定した。授業の最後の振り返りと並行して、ワークシート末にある「勢力グラフ」の作成を行う。本時の学習で扱った人物や身分を挙げ、その「人」がどのくらい権力を握っていたのかをグラフで表す。単元を通して、どのような人々が権力をもち、それが推移していったのかを多面的・多角的に考察することで、試行錯誤し、学びに取り組むことができた。その試行錯誤の様子を、教師は単元の学習の始まりの自分との意見の変容や、学習した事柄のどのようなことから考えが変容したのかを自覚させるような声かけや形成的評価を生徒に行い、学習改善につなげた。(資料2)



資料2 毎時間のワークシート末にある「勢力のグラフ」(生徒例)

【手立て2】生徒自らの「挑戦心」の意識化

生徒の挑戦を後押しするためにいくつかの方法を用いた。次の通りである。

方法① 学習目標をもたせる

学習目標とは「学習において学習者がもつ目標を言う。学習者が授業の始めから学習目標をもっていることはほとんどないので、学習目標や自己評価を問題にする場合には、授業において学習目標を学習者にいかにもたせるかが重要な課題となる。」¹とあり、学習目標をもたせるために授業の最後に学びの地図を記入させた。その記述から学習目標を持っているか把握し、指導改善に努めた。

方法② 生徒同士の相互評価や意見交換を行う

学習が個別だけのものに陥らないよう、単元の最後に相互評価を行ったり、単元の途中で意見交換をしたりすることで、挑戦を続けることができるように工夫を行った。

方法③ 自己肯定感を高める

自己肯定感を高めることで、生徒が自分自身に自信を持ち、挑戦を成功させると考えた。自己肯定感を高めるために、毎時間の終わりに記述させる「学びの地図」に自分の良さを自覚化させるフィードバックを行った。

以下に実際の生徒へのフィードバックについて紹介していく。

授業日	タイトル	この授業で一番大切だと思ったことは？	感想・疑問・質問など
		※以前の学習履歴は省略 斜体の文字が教師のフィードバック	
1/12	寛政の改革	田沼意次の政治では商業、寛政の改革では農業を重視していたということが分かりました。☺	江戸の三大改革について調べたいです。いいね!
1/13	元禄文化	元禄文化は、上方の町人が担い手になり、金箔などを使った豪華な文化だということが分かった。☺	化政文化との違いを調べてみたいです。いいね!
1/6	化政文化	化政文化は、庶民中心で、識字率の高さから流行したということが分かりました。受け取る庶民もすごいってことだね	他にはどのような学問があるのか調べてみたいです。違いはあった?
1/16	外国船	アジアは、外国と比べて遅れていたということが分かりました。否 定できないよね	イギリスはどのように発展したのか調べてみたいです。これからですね!

1/16の記述には、幕末の日本に外国船が来港するようになった背景を理解するためには、諸外国の歴史を学ぶ必要性があることを学習目標にしている様子が見える。

以上のように生徒の一人一人の挑戦心を後押しする方法を用いた。なお、その他の具体的な方法に

については、協議会当日に配布した資料を参考にされたい。

【手立て3】教師や仲間との協働的な学びの充実の手立て

ここでは、教師や仲間との協働的な学びの充実の手立てについて、公民的分野 C(1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則を例に説明したい。この単元では、共生社会の担い手になるために、どのようなことができるのか、自分ができること、仲間に働きかけること、行政に働きかけることなど、多面的・多角的に考察した解決策を探究課題とし、班で協働してポスターを作成する活動を行った。さらに、作成したポスターから読み取った差別解消の手立てとして有効なものを、Web フォームを用いて相互評価を行った。(資料3) 相互評価を行うことで、今後単元を学習していくうえで、課題解決の大切な要素を再確認できると考える。さらに、他者に働きかけて差別解消の手立てを考え、共生社会を実現しようとするためには、他者の意見を取り入れて、自分の考えに活かしていくことが大切である。他者の意見から、多面的・多角的に考察・判断するための情報を得て、自分の課題解決に生かし、仲間との協働的な学びの充実を図っている。

育MENについて今の資料を根拠に主張していた人々の権利を守る憲法について書かれていた。育児の権利にもとづいて解決するべき。
育児休業法というのを初めて知りました。グラフから見るに、将来は男女で一緒に育児をする時代が来るのかなと思いました。周りが育児を取りやすい環境をつくる必要があるというのはすごく共感しました。
一番下のほうに子どもの人権110番(全国フリーダイヤル)などの相談できるところを書いているのはとても良いなと思いました。いじめをなくすためにどうしていけばいいのかも書いてあるので分かりやすいです。
いじめをなくすためには、いじめをさせない・見逃さないことが大切なのだとわかった。また、日本国憲法が関与していること(いじめに関する)も多いことが分かった。こんなにあるんだね。相談窓口が書いてあるのがいいね。

質問

応答 13

【3C】差別解消のポスターについて、他の人の作品から共生社会を実現するための有効な手立てを学ぼう。

1. クラス番号氏名を書いてください。例) C40 堀大太郎 ※番号は通し番号です。

回答を入力してください

2. 1 枚目に見たポスターの番号を書いてください。(番号のみ書く)

作成したポスターへの他者評価の一例と Microsoft Forms (資料3)

5 研究の成果と課題

成果としては資質・能力の高まりが見られた。問いの工夫や試行錯誤する場面を意図的に設けることや社会や他者とのつながりを明確に示した学習に取り組むことで、生徒自身が必要感をもって協働的な学びに向かうことができた。その結果、単元を通して身に付けたい資質・能力の高まりが振り返りのワークシートから見取ることができた。

課題としては「挑戦心」の評価の在り方がある。課題解決にそれぞれの学習目標や学習方略をもち、主体的に取り組んでいる生徒は、学びの地図の記述やアンケートの結果から増えていることがわかった。しかし、それを生徒自身が有用だと実感する手立てがまだ少ない。生徒自身が学習改善を行う、形成的評価を行うことや、他者からの評価の有用性を検証していかなければならない。

引用・参考文献

- ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編
- ・中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編
- ・奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』東洋館出版社, 2017
- ・澤井陽介・加藤寿朗『見方・考え方 社会科編』東洋館出版社, 2017
- ・田村学『深い学び』東洋館出版社, 2018
- ・独立行政法人教職員支援機構編著『主体的・対話的で深い学びを拓く』学事出版, 2018
- ・工藤文三編著『平成29年改訂中学校教育課程実践講座社会』ぎょうせい, 2018
- ・田中保樹・三藤敏樹・高木展郎編著『資質・能力を育てる学習評価』東洋館出版社, 2020
- ・堀哲夫(監修), 中島雅子(編集, 著)『一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業』東洋館出版社, 2022

ⁱ 堀哲夫(監修), 中島雅子(編集, 著)『一枚ポートフォリオ評価論 OPPA でつくる授業』東洋館出版社, 2022 P27 より引用